

D. 継続的計画的な進路指導についての研究

志望校ないしは学部までも強制することが現実であり得るからである。また経済上地理的条件が志望校の選択範囲をせばめる場合が非常に多い。時にはこのために学校のみならず学部の範囲も限られてしまうことがある。適性をとやかく言うてはおれないかもしれないのである。

3. 指導上の問題

このように生徒の志望校及び学部の決定は、まず自分の興味関心を土台にしてまず学部の範囲が定まり、次に学力を基準にして志望校を決めるという順序をとるのが普通であり、それに経済的地理的条件が加わり社会的な風潮が影響を与え、親兄弟などの家庭上の問題が制約を加える、といったことになるわけである。そこでこういう過程の中で自分の適性をどのように織りこんで考えてゆかなければならないかということを経導上の立場から考えてみたい。

- ア. 興味関心そのまま適性とは限らないことを周知徹底させる必要がある。一時的な情熱といったようなこともある。漠然とした興味ぐらいならなおさらのことである。多くの学校で行われている2年からの文・理コースの分化はこの一時的興味を固定化させてしまうことになりはしないだろうか。
- イ. 社会的風潮がそのまま志望決定の第一条件とはならないだろうが無意識のうちにこれに乗せられていることは少なくない。特に前述の興味関心を特定の教科に対して持たない者は漫然と大勢に従って就職に便利なところないしは結婚条件に有利になりそうなところを選ぶ傾向がある。適応能力の中の広い者は状況の変化に応じてゆけようが、そうでない者は入学後適性のないことを知って苦しむことにもなるし時勢の変化に対処し切れないことも起りうる。
- ウ. 学力の面にあらわれた得意不得意科目をもって適性の判断をすることも危険である。興味関心の度合

いがそのまま学力の差となってあらわれている場合が多いので、適性とのはずれは前者と同様である。数学の如き積み重ねの必要な教科において、ある一時期一項目につまずいたばかりに後が続かなくなり、理科系そのものへの適性をないものと判断してしまうことなどありがちなことのように思われる。また学力の点のみからみて入りやすいというだけの理由で特別な学部をえらぶ者もいるが、適応能力よほど広い者以外は絶対に避けるべきことである。

エ. 父兄の進学に対する熱の入れかたは最近とみに高まりつつあるわけだが、自分の子の適性というものには本当の意味では無理解な場合が少なくない。本人まかせにしている父兄もあれば、独断でわが子の進学先を決定させる父兄もある。概して学歴の高い親はわが子に実力以上の期待をかけ過ぎる傾向があり、適性を見過っている場合が少なくない。父親と母親の意見のくい違いも、適性をよく見ていないところから起るものであり、生徒の気持をはなはだしく乱すものである。その意味で、教師と生徒、それに父兄を加えて納得のゆくまでの話し合いが絶対に必要とされるのである。

4. むすび

以上のように、適性ということが常にやかましく問題にされながらも現実には必ずしもうまくいっていないわけなのであって、それを少しでも望ましい方向にもってゆくためには、教師は常に生徒と接触し、各人の性格的特性を把握しておくことが必要となるわけである。また性格テスト、向性テストその他一連のテスト類を十分に活用することも意味のあることと考えられる。そして何よりも、皮相的な意味での適・不適から一步進んで、各人の真の意味での適性を見出させるように生徒をしむけることが大切であろう。

(倉田)

Ⅳ. テーマ能力開発と進路指導

—— 高等学校の進路指導についての一考察 ——

1

高校教育における進路指導の重要さは言うまでもないが、この方法にはいまだ決定的な結論はないといってよい。毎年変動する受験界の動向を注視し、過去の学校の受験生の成績資料に基づき、丹念に現在の生徒

の適応能力と希望とを考慮し、学力を詳細に分析して個人的に指導してゆくというのが一般的ではないだろうか。われわれは前年度のレポートにおいて各学年に次のような目標をたててみた。

1年 基礎能力(学力)の充実

2年 文科・理科への適応能力の発見

3年 希望コースへの指導

これら各学年の目標への足がかりとして実施したことをまとめ、特に本年度は、3年の担任—または進路指導係—として実施した考慮してゆきたいことについて述べてみる。

まず、1年の指導目標への出発として、入学当初の成績を5教科を中心にその変化を調査してみた。(表A)と(表B)がその結果である。(表A)は中学の成績と高校1学期末の教科別成績関連の表であり、(表B)は受験のときの成績と1学期末の5教科総合の成績関連の表である。これらの表を観察すると高校教科カリキュラムの内容は中学のそれと比較して急速に高次のなものとなり、中学のときの高位の成績のものでも、教科によっては相当低位まで展開していることがわかる。高校の評価が中学のそれと異なり絶対評価であるにせよ、やはり学習上に十分に理解しえない教科(国語、数学、英語など)が考えられる。しかし概して1年の当初においては、中学の成績とは相関度の高いことがわかり、特に本校では、付属中学からの入学者が全員の約半数を占めているので、中学からの追跡研究ができる。そして入学時において市内各中学からの生徒の成績と比べて、少々全体的に下位の生徒が多いのにもかかわらず、上位の生徒は直ちに上位グループに入り、また他中学の生徒の幾人かが下位グループに入ってしまうことも注目される。付中出身者が早く教授者やカリキュラムに適應してゆくに反し、他中学出身者の中に若干の不適應者を発見するが、これら少数の生徒の原因を追求し、その指導を考えるのは、担任として当然考えられなければならない。

次に、2年における、適性能力の発見は、調査の結果、その一部を前節Ⅱテーマ(進路と適性能力)において発表した。これら適性能力は、この学年においては、まだ、流動的なものであるから、3年になっても再度、調査分析する必要がある。また1年における基礎能力の充実の結果を把握するため、実力テストの科目数も従来の5教科中心から、3教科中心へと目標をしぼりまた、テスト回数も、3回(従来は5回)としたことは、指導上効果的であり、所謂基礎科目の学力を徹底的に養い、文理科適性能力を考えさせるのに適當であったと思う。最後に、3年の希望コースへの指導について、H・R担任としてどんな点について注意してきたかについて述べることにする。

2

3年におけるH・Rの進路指導の計画と実施、進路指導の計画と実施は過去の経験や資料に基づいてなされるべきであることは、前述の通りである。この数年受験生に実施した結果をもって進路指導の一試案とし

てみたい。これには、次の五項目が考えられる。

1. コース別のカリキュラム編成と科目選択の指導
2. ロングタイムにおける進路指導のあり方
3. 適性調査とその結果指導について
4. 「実力テスト」のあり方とその指導(事前と事後)
5. 進路指導と父兄の理解

1. コース別のカリキュラム編成とその科目選択の指導

これは3年当初、H・R担任として重要な仕事の一つある。3年のカリキュラムでは、進路を考慮しての科目の希望選択に基づくコースが社会科・理科へ計画され、(理科においては2年後期から)また学力差が一般に著しく現われる数学・英語・古典乙Ⅱなどについては約30人単位の能力別のクラス構成と併行しておる。2年の成績は精細に考慮し、生徒の希望と能力とに対し適性に指導してゆかなければならない。これらコース別・能力別指導は新カリキュラムの趣旨にもかなうし、また最近多くなりつつある大学の受験科目の指定制(特に理科・社会)にも十分適應されると思う。また学期毎にその成績を考えて、上級の、あるいは、下級のグループへ編入させて、その努力の結果を正当に評価し、指導することができるのである。

2. ロングタイムにおける進路指導のあり方

3年の特活の一つとしてのロングタイムにおいては当然進路指導のプログラムが大きな比重をもつ。この時間において次のようなテーマを取りあげた。例えば年間(各学期の)学習計画の目標と考え方、

- ① 基礎学力の充実
- ② 不得意科目の征服
- ③ 応用力の伸張
- ④ 総合力
- ⑤ 受験校の出題傾向とその対策

これら五つの目標はそれぞれ学期や休暇の学習法の中に適切に入れて指導してやらなければならない。また月間あるいは週間の計画に対しても指示を与え、その実施の結果を反省しながら計画を能率的に実施できるようにくふうすることも忘れてはならない。これらには教官がその指導経験を話すことと同時に先輩から受験準備の体験を聞かせ激励することも効果的な一方法である。夏休の一目録である「不得意科目の克服法とか、晩秋ごろに多いスランプを乗り切るコツ、健康と受験生とか、精神衛生の問題について精確な指導は忘れてはならない。そしてロングタイムでは教官や先輩の話しの外に生徒相互の討論やNHKの「青年期の探究」の録音教材などを利用して試みた。

3. 適性調査とその結果指導について

生徒が自己の受験校に対する希望の動機とか適性などを調査すると、正確に判断し記入できるものは非常に少ない。1学期末に行なった職業適性判定調査(表C)と3学期初めの希望校調査(表D)の結果を個人毎に比較してみても両者の一致は極めて少ないばかりでなく、希望校に対する自己の適性を十分に書けるものは少なく、約40%までは無記入であった。進学希望者にとっては職業適性判定調査は直接は関係ないとしても、学部選定の条件としては十分考慮されなければならないまい。この外に、市販の「高校生適性診断と進学指導—電子頭脳システムによる」とか、「電子頭脳システムによる診断つき—大学入試突破法・診断」などの調査の結果なども参考としてよいと思う。適性能力や基礎学力について十分な把握ができないと受験校や学部に対しても疑問や不安をもち、その結果、受験校を多くもつようになるが、これは必ずしも効果的な受験をもたらしえない。受験に疲れ、その結果判明の前に不安のうちに受験をする場合が多く徒労に終りがちである。調査によると受験希望の25%が2校、70%が3~4校で、残りが1~5校で6校以上は皆無であった。しかし希望校については依然として65~70%までは自己の能力を無視して国立I、II期校に集中しているのは指導に反省させられるものがある。

4. 「実力テスト」のあり方とその指導(事前と事後)

実力テストの成績が進路指導の資料として重要な役割をもっているが、そのあり方については本校においては十分には討論されず、従って結論も得ていない。従ってここには、われわれグループの一試案を提出してみることにする。今まで「実力テスト」には二つの考えがあったようだ。一つは学習の結果、修得した実力を把握し診断する(所謂診断テスト的な性格をもち自己の成績の欠点を発見しその後の学習の方法や態度を再考してゆく)一というのである。もう一つは所謂模擬テストといわれるもので、大学の入試を考慮し受験的な問題でテストするというのである。この二つの考え方にはそれぞれ特徴はあるが、教官がそのテスト資料に基づき指導するのは、その科目の成否について注意するのは勿論であるが、現実的には、受験校選定の当否に関係することが多い。従って3年においてはこの模試的な傾向をもってくるのは自然であろう。しかしこのテストにおいて注意しなければならないのは、実施と同等に事前、事後の指導であろう。これについて次の四つの点について考えてみたい。

① テスト範囲を明示しよう。

3年の実力テストは5教科中心で実施されるが、各教科が計画的に範囲を明示し、生徒に事前の準備させることは少ない。今まで教科によっては、時に示したことはあったが断続的であった。生徒の実力把握のテストであっても当然「指導上」範囲を明示し、かつ到達目標を明確にせねばならない。生徒はこのような予告によって自己の学習計画や目標も立てられるし受験準備の能率化も期待できると思う。

② テスト回数を少なくし、合格点を考えよう。

従来の年間6回は多すぎる。これに中間・期末を加えると11回テストが行なわれ、教官も生徒もテストに追われ、指導または学習が十分でない。正確な成績資料を得るためには、回数を多くするよりは、むしろ十分に精選考慮された問題でテストせねばならない。従って、回数についても慎重に考え多くとも4回くらいが限度ではないかと思われる。また出題教科においては、受験科目の合格点をほぼ決定しておき指導の参考にするようくふうされるべきである。

参考にテスト4回の範囲配分表を公立A高校のを一例として挙げる(表E)

③ 実力テスト後に予想得点を書かせよう。

生徒が自己の得点を正確に予想することは、自己の実力を知るのに極めて重要なことである。1年間、6回のテストの予想点を書かせ実際の得点と比較させながら指導した経験から言うと大学の第一志望合格者の大半(80%)までは自己の成績を最初から得点より低く予想している。そして逐次、その得点との差を少なくしている。女子は全般的に常に控えめであるが、男子の合格者は全員予想点が低かったことも注目できることである。

④ 進路指導会議の意見を指導に生かそう。

受験校の適否調整は、年間の実力テストの成績と受験科目の良否によって決定されなければならないが、過去数年間の進学成績のグラフ(表F)などを参考にし、進路指導会議において教科担任の意見を十分指導に生かさなければならない。

H・R担当教官は、学年当初にあたり、生徒の希望校はできる限り高く掲げ、自信とプライド、そして憧れへの努力、向上への意欲をもたせるようにしながらも、後半には生徒が自己の実力を正確に評価し、現実的に受験校を決定する判断力を養うようにすべきである。

5. 進路指導と父兄の理解

テストの結果、その成績は本人の指導に利用するが、また毎回父兄へも通知または個人別面接で希望校を確定してゆくが、これら教官対父兄の懇談の外に父兄相互の話し合い—情報交換—も必要であろう。特に2学期の末に、希望校決定にいろいろと疑問を感じる時、このような保護者会をもつことは、受験に関して予備知識の乏しい父兄が、進路指導の実態とその困難さに理解をもつようにな受験生の親としての共通な悩みを解決する一つ場として効果的なものではないだろうか。クラスの父兄の半数以上が参考し、非常に

有意義な印象を与えたと考える。

3

本校において実施して来たこと、また計画されている点やその問題点についてまとめてみた。進路指導は本来個別的なものであり、また過去の経験と豊富な資料に基づき科学的に行なわれなければならない。従って諸調査の結果、集積されたデータを検討し、計画的に指導されるならば、その能力、適性は発見され、十分に伸ばすこともできるであろうし、卒業学年の担任としての責任を果たした言いうるのではなかろうか。

(鈴木)

(表A) 中学の内申成績(A)と高校1学期末の成績(B)の相関

表中の数字の生徒数を示す (右下細数字付中出身)

B \ A	国 語				社 会			数 学			理 科			英 語		
	5	4	3	2	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3
10	3 ₁							6 ₀						1 ₀		
9	10 ₂				1			10 ₅			2 ₁			13 ₃		
8	20 ₁	1 ₁			6 ₃			17 ₂	1 ₁		12 ₄	1 ₀		20 ₁₁		
7	21 ₃	10 ₆	1 ₁		26 ₆			18 ₅	2 ₂		17 ₃	1 ₁		25 ₉	4 ₂	
6	11 ₂	20 ₁₄	4 ₃	5 ₅	45 ₁₄	15 ₁₀	4 ₄	21 ₂	12 ₈	1	20 ₄	7 ₅		18 ₅	18 ₁₀	
5	4 ₁	6 ₄	9 ₈	6 ₆	19 ₇	15 ₁₂	5 ₄	13 ₇	12 ₉	1	24 ₅	10 ₆	1 ₁	4 ₀	17 ₁₄	1 ₀
4		2 ₁	7 ₅	3 ₃	5 ₅	2 ₂		2 ₂	10 ₇	2 ₂	7 ₆	14 ₁₀		7 ₄	3 ₃	
3			1 ₁	1 ₁	1 ₁			3 ₁	4 ₃	6 ₆	3 ₀	15 ₁₁	5 ₅	4 ₃	2 ₁	
2			2 ₂					1 ₀	2 ₁	5 ₅	1 ₁	2 ₂	3 ₃	1 ₁	2 ₂	

(表B) 受験時の総合成績と1学期末の成績(5教科)との相関

内……付中
外……外部公立中

区分	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内
	③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨	
入試評価	15 ~ 19		20 ~ 24		25 ~ 29		30 ~ 34		35 ~ 39		40 ~ 44		45 ~	
140										1		1		
130							1		1		1		1	
120			1		6		3		4				1	
110			1	1	8	3	14	1	8	1	3			
100			3	1	4	2	9	2	3	4				
90以下		11	2	13	3	12	2	10	2					

D. 継続的計画的な進路指導についての研究

(表C) 職業適性判定調査, 質問内容とその結果
(青山学院大学 瀬谷正敏氏による)

進路指導についての調査 (進路適性の発見)

A記入上の注意 (記入は別紙)			
1. 次の調査項目についてはあまり考え過ぎず直観で記入する。			
2. 記入にあたっては次の4つの組み合わせ以外の数値を記入しないこと。			
①	もしあなたが (a) に賛成し (b) に反対のとき	a = 3	b = 0
②	もしあなたが (b) に賛成し (a) に反対のとき	a = 0	b = 3
③	(b) にくらべれば (a) の方がいくらか好ましいとき	a = 2	b = 1
④	(a) にくらべれば (b) の方がいくらか好ましいとき	a = 1	b = 2

A

1	科学的研究の主な目的は, 実用的な応用より真理の発見にあり	(a) 賛成	(b) 反対
2	万葉集を単なる詩や文学として味わうよりは, むしろ当時の人たちの社会の実態を研究する材料と考えるほうがよい	(a) 賛成	(b) 反対
3	吉田松陰が偉人とされる理由は次のうち主にどちらの理由によると思うか	(a) その時代の先駆者であったから	(b) すぐれた教育者であったから
4	はなやから儀式に立合いより強く印象づけられるのは	(a) そこの雰囲気によって	(b) そのときの色彩や外観で
5	会社員として次のどの部局に所属したいと思うか	(a) 人事部	(b) 営業部
6	次の2冊の本のうち, どちらか一冊がもらえたらどちらを選ぶか	(a) 「誰にでもできるラジオの組み立て方」	(b) 「わかりやすい国際情勢」
7	朝刊に次の2つのニュースが同じ長さの見出しで報道されていたとすると, どちらに注意を払って読むか	(a) 物理学の新理論発表さる	(b) 市況やや好転す
8	次の学問のうち, どちらが人類のためより重要だと思うか	(a) 数学	(b) 教育学
9	工場見学の場合, 次のどちらにいつそう関心をもつか	(a) 商品の製造工程	(b) 建物の外観・美観
10	あなたは, 知らない土地を旅行した時に次のうちどれに興味をもつか	(a) その土地の風俗や習慣	(b) その土地の産業
11	あなたは, 自動車について次のどちらに興味があるか	(a) エンジンや機械の仕組み	(b) 運転
12	あなたは, 次のうちどちらの人間になりたいと思うか	(a) 利己的でなく同情心にとんだ人	(b) 高い理想と指導力をもった人
13	現代の指導者としては, 次の役割のうちどちらがもっと重要だと思うか	(a) 文化や芸術の振興をはかること	(b) 犯罪をなくし, 住みよい社会を実現する
14	あなたは休日をどのように過ごしたいか	(a) 好きな本を一日読んでいる	(b) 外出して友人をたずねる
15	次の2種の職業のうち, あなたはどちらをより好むか	(a) 人との接触がたえずある職業	(b) 機械物が相手で人間との接触の少ない職業
16	東京オリンピックは次のうちどちらに意義があったと思うか	(a) 多くの近代的道路や建築物ができたこと	(b) 青年に自信を与え向上心をおこさせたこと
72	十分に暇があるとして, その時間を次のどちらに使いたいと思うか	(a) 自分の好きな技術を修得する	(b) 社会奉仕の仕事に参加する
18	クラブ活動で何か役割を分担しなければならぬとき次のうちいずれを選ぶか	(a) 渉外係	(b) 会計係

共 同 研 究

19	あなたは次の2つのうちどちらを好むか	(a) 機械の分解や組立 (b) 所外でのスポーツ
20	あなたは小さな町に住んでいて、自分に必要以上の収入があるとしたら、次のどちらに金を使いたい	(a) 商業・産業の発展を助長するような生産的なことに (b) 住んでいる地域の科学的発展のために寄付
21	良い政治は主として次のうちどちらを目的とすべきだと思うか	(a) 製造工業や貿易の発展 (b) 貧困者・老人・病人に対する積極的な援助
22	仕事で一週間働いたとき、日曜日をどのように過ごすのが一番よいと思うか	(a) ゴルフやその他の競技をする (b) 絵画を見たり音楽をきく
23	あなたが次の職業に必要な能力をもっており、収入がどれも同じであるとしたら、どの職業につきたいと思うか	(a) 物理学者 (b) 画家
42	宇宙は自然の原理に従って現状まで進化したのだからその進化の背後に神による創造を考える必要はないという意見に	(a) 賛成 (b) 反対
25	学校での音楽教育の目的は	(a) 芸術を理解する心を育てる (b) 豊かな情操をはぐくむ
26	あなたは、自分の子どもに次のうちどちらの性質をもってほしいと思うか	(a) 円満な社交性 (b) 物事を徹底的に考える研究心
27	学校の文化祭で、次の役割りのどちらかをしなければならぬとしたら、どちらを好むか	(a) 催し物を一般来客に説明する係 (b) 催し物の飾りつけをする係
28	もし、あなたが保険の勧誘員であったとしたら、次のうちどちらにいったら喜びを見出すか	(a) 自分で身体を動かし、あちこちとたずね歩くこと (b) 他人を説得し保険の知識を与えること

B

はい いいえ ?……決めかねる
のいずれかの欄の中に○を記入

1	新しいことにはすぐ興味をもつが、またすぐにあきる	11	からだを動かすのが好きである
2	初めての友だちにあっても気楽に話せる	12	他人から自分は正当に認められていないと思う
3	深く考えずにすぐ実行してしまうことが多い	13	人にくらべて意志が弱い
4	人と協調して仕事をするのが苦手である	14	人目につくようなことはきらいである
5	一度決心したことはなかなか放棄しない	15	引っこみじあんである
6	どちらかというの内気なほうである	16	友だちを信用することができる
7	消極的すぎて後悔することが多い	17	興奮しやすい
8	人にくらべて不満が多いほうである	18	友だちに世間話しするのが好きである
9	どちらかというとなり型である	19	無口なほうである
10	どちらかというとなり「はで」なことが好きである	20	自分ひとりの秘密をもつことが少ない

D. 継続的計画的な進路指導についての研究

A 興味による職業(学部)の判定調査

		学 部	男	女
1	製造業(営業職)	経済 商学 文学	6	2
2	“(事務) 人事 企画 経理 庶務	法学 経済	10	0
3	“(技術) 設計・工程管理 技師	工学	16	0
4	貿易 商事	商学 文学 経済	1	4
5	金融 銀行	経済 法学	12	19
6	ジャーナリズム 出版 新聞 放送	文学	0	0
7	公務員など 公社 公団	文科系	4	6
8	教育 職	教養 文学 理学	6	6
8	専門自由職 医師 弁護士 税理士	医学 法学	10	4
10	“ 研究職 大学 研究所	各学部	6	2
11	“ 特殊型 芸術家 小説 批評 etc	文科系	0	0
計			61	43

B 性格テストによる調査(職業に適応する性格分析)

a. 持続性 b. 外向性 c. 活動性 d. 協調性

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
b c d	d	a c	b c	a d	c	d	a d	a c	a	a

(表D) 受験科目, コースに対する調査(現高3年)

一 受験校に対する調査

- 願書はいくつ出す予定にしているか…………… 今のところ()の予定
- 願書を出す学校に対する自信は…………… イ. 勿論ある
ロ. 2/3くらいはよい ()
ハ. 半分くらいか
ニ. まあ何とか

- 最もつよく希望している学校・学部を書け
()

- その学校学部を希望する理由 イ, ロの何れかに答えよ
イ. 自己の能力適性を考えて, (自主的に) どんな適性があると思うか
ロ. 他人の勧めで, (父兄, 友人, 先生から) どんな適性があると言われたか

- 第6回の実力テストはコース別に受験を考慮し配点も一様ではありません。

どのコースで受験するか A, B……の記号で答えよ

- A……1000 全教科 名大型
B……900 “ (社会1科目)……国立 理科
C……900 “ (理科1科目)…… “ 文科
D……900 “ (社会1科目)……私立 理科 ()
E……600 数学, 除く 社・理各1科目…… “ 文科
F……600 “ …… “ 家政学部

共 同 研 究

1. 受験願書		2. 受験への自信		4. 希望の理由(適性)		5. 受験型	
学 校	人 数	程 度	人 数	項 目	人 数	型	人 数
2 校	10	絶 対	4	好きだから	33	A	19
3 "	23	十 分	11	科目から	20	B	20
4 "	38	半 分	43	環 境	3	C	21
5 "	18	不 安	35	他人から	4	D	6
6 "以上	4			記入なし	33	E	18
計	93		93		93	F	9

(表E) 実 力 テ ス ト 範 囲 配 分 表

英 語	範 囲 な し					
数 学	回	共 通		文 科	理 科	
	I	式と計算, 方程式と不等式とグラフ 指数, 対数関数 三角関数, 論証		数 II 微 分	数 III 微 分 微分の応用	
	II	複素数, ベクトル 図形と方程式 個数の処理, 数列と級数		数 II 積 分	積 分 積分の応用 確率と統計	
	III	全 範 囲				
IV	全 範 囲					
国 語		現 代 文 (2問)		古 文 (2問)		漢 文 (1問)
	I	① 評論 ② 小説その他		③ 古 代 ④ 中古(詩歌・源氏)		⑤ 史 伝
	II	① " ② "		③ 中古(詩歌・源氏を除く) ④ 中世		⑤ 詩・諸子
	III	① " ② "		④ 近世		⑤ 四 書
IV	① " ③ "		⑤ 評 論 ④ 全 般 ⑤ 選 択		⑤ 全般 { 必① 選①	
文学史・文法は現代文・古文の何れにも含まれる						
理		物 理		化 学		
	I	力と運動, 物性(固体の変形, 流体)		無機化学全体, 理論化学(既習)		
II	第一回の範囲 + 熱, 波, 静電気		第一回の範囲 + 有機化学基礎 鎖状炭化水素及びその応用			

D. 継続的計画的な進路指導についての研究

科	Ⅲ	第二回の範囲 + 電磁気全部	第二回の範囲 + 環状炭化水素及びその応用
	Ⅳ	物理全部	第三回の範囲 + 生物体の化学
理科		生 物	地 学
	Ⅰ	生物体の構造 物質交代 (栄養, 循環, 呼吸, 排出)	地球の概観 天体としての地球
	Ⅱ	第一回の範囲, 刺激反応, 行動 調節, 生態, 生殖, 発生	外因的の地学現象, 地史, 岩石圏とその物質, 星の進化と宇宙の構造, 内因的の地学 現象, 大地の成立
	Ⅲ	第二回の範囲 + 遺伝	全 範 囲
	Ⅳ	第三回の範囲 + 進化, 系統	〃
社会		世 界 史	教科書「好学社」による
	Ⅰ	第1章 (文明の起源) ~ 第6章 (ヨーロッパ世界の形成)	
	Ⅱ	第7章 (ヨーロッパ近代化への歩み) ~ 第10章 (市民社会の形成)	
	Ⅲ	第11章 (自由主義, 国民主義の発達) ~ 第13章 (帝国主義と第1次世界大戦)	
	Ⅳ	第14章 ~ 第15章と総合問題	
		各回とも問題集「世界史1000題」(学生社版)の学習範囲を含める)	
社会		日 本 史	地 理
	Ⅰ	原始と古代の末まで (教科書 P.83 まで)	教科書 1 ~ P.123
	Ⅱ	第一回 + 中世の終まで (P.138 まで)	〃 P.129 ~ P.233
	Ⅲ	第一回 + 第二回 + 近世末まで	全 範 囲
	Ⅳ	全 範 囲	〃
		倫 社	政 経
	Ⅰ	全 般	政 治 単 元
	Ⅱ	〃	経 済 〃
社会	Ⅲ	〃	社 会 〃
	Ⅳ	〃	国 際 〃

共 同 研 究

(表F) 進 学 成 績 の 表 (進路指導会議の資料として)

— 3年担任において作成したもの—

進路指導会議の指導資料と進学率 過去3ヶ年 (A組を対象とする)

調査 154人 (49 + 52 + 53)

成績段階		進 学		合 格 校			備 考
区 分	数	数	%	第一希望	第二希望	そ の 他	
A	14	13	92.8	男 9	0	0	A 殆んど全員
				女 3	1	0	
B	18	11	61.1	男 4	2	1	B やや成績落ちる
				女 0	3	2	
C	46	36	78.0	男 3	11	11	C 第2, 第3希望多い
				女 4	5	2	
D	54	34	63.0	男 7	3	2	D 男子 第1 女子 第3, 第2多い
				女 4	8	10	
E	14	8	57.1	男 2	1	0	E Dと同様就職
				女 0	3	2	
就 職	8						